校長室だより

第１号

三刀屋高等学校・掛合分校

令和３年４月１４日

４月１日校長として赴任しました山﨑誠です。まだ、校長室だよりの名前もなにも決めておりませんが、情報発信の一つとして、当面は学校のホームページで発行していきたいと思います。

最初は始業式での話を掲載します。次号は、入学式の式辞を掲載予定です。

始業式での話（抜粋・一部改変）　*始業式では割愛した部分を一部掲載しています。

今年度のスタートにあたり、これまでの合い言葉（凡事徹底、日々新生、志あるところに道はある）をもとに、新たな合い言葉を作りました。

『小さな挑戦、小さな善行、確かな志　～自立した大人となるために～』　です。

「自立は自ら立つと書きますが、自らを律する自律も含んでいます。この言葉を選んだのは、みなさんに自立した１８歳として高校を卒業してほしいからです。しかし一言で自立と言っても人それぞれとらえ方が違うし、現在の状況も違います。必ずしもすべてが自分できるようになるという意味でもありません。自立とはなにか各自で考えてください。自分にとって自立した姿はどういう姿なのか、その姿になるには何が足りなく、何をしなければいけないのか。

これからの学校生活の様々な場面で、成長するチャンス、挑戦するチャンスがあると思います。しかし、自分が意識していないとそのチャンスや挑戦はただのイベントで終わってしまいます。

また、凡事徹底、あたりまえのことをあたりまえにする中で、つまりしっかりとした生活を送る中で、そのチャンスは見えてきます。

だからこそ、常に自立と言う言葉を、キーワードとして意識してほしいと思います。

そして「小さな挑戦、小さな善行、確かな志」に込めた意味から、みなさんに二つお願があります。

一つ目は、小さな挑戦であってもいいので、明日の自分に会うのが少しでも楽しみになるようなことを日々意識し取り組んでもらいたいのです。「日々新生」、本当に小さいことでもかまいません。例えば、１０分ほど勉強時間をいつもより長くしよう、そんな小さな挑戦・変化でいいのです。成長は変化の結果です。学習でも、部活動でも、家庭での生活でも何でもいいです。それを考え、失敗を恐れず取り組むことがそれぞれの自立につながると信じています。なによりも学校は、挑戦し失敗からも学ぶ場所です。たとえば、カーネルさんは、1,009 回も営業で断られたそうです。挑戦し、あきらめず、志をもってそれを続けることが大事です。マラソンも、完走には、まずはスタートラインにたつこと、１歩を踏み出すこと、それが大事です。

二つ目は、小さな善行。一日一善という言葉がありますが、ほかの誰かを思ってなにかをすることで、他者を尊重する、気遣う気持ちが育ちます。廊下のゴミを拾う、そんな小さなことでいいのです。マスクの着用や手指消毒、検温など、自分のためにも、みんなのためにも徹底する。それも気遣いの一つです。気遣いができると、応援される存在になります。応援は自分の成長、成功にもつながります。一人一人にその気持ちがあれば、いじめもない、安心・安全な学校となるはずです。

水泳の池江選手が「出口の見えないトンネルはない」という医師の言葉を信じて病魔と闘ったと言っておられました。今のような世の中だからこそ、確かな志をもってほしい。志は、小さいか大きいかは関係ありません。確かな志はぶれない自分をつくります。

なによりも学校は、夢と絆を育むところです。仲間共に、自分の夢や志を実現できるようがんばってください。それでは、皆さんが今を大切にして、一生懸命取り組み、気概に富んだ一年になることを願って、始業式にあたっての話とします。